

# 矢部川水系河川整備基本方針

矢部川水系の流域及び河川の概要  
(案)

平成 26 年 4 月 24 日

国土交通省 水管理・国土保全局



# 目 次

第1章 流域の自然条件	1-1
1-1 河川・流域の概要	1-1
1-2 地形	1-3
1-3 地質	1-5
1-4 気候・気象	1-7
第2章 流域及び河川の自然環境	2-1
2-1 流域の自然環境	2-1
2-2 河川及びその周辺の自然環境	2-3
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	2-12
2-4 自然公園等の指定状況	2-16
第3章 流域の社会状況	3-1
3-1 人口	3-1
3-2 土地利用	3-2
3-3 産業・経済	3-5
3-4 交通	3-6
第4章 水害と治水事業の沿革	4-1
4-1 既往洪水の概要	4-1
4-2 治水事業の沿革	4-9
第5章 水利用の現状	5-1
5-1 水利用の変遷と現状	5-1
5-2 渇水被害と渇水対応の現状	5-6
5-3 水利用に係わる今後の方向性	5-10
第6章 河川状況と水質	6-1
6-1 河川流況	6-1
6-2 河川水質	6-2

第7章 河川空間の利用状況	7-1
7-1 河川の利用状況	7-1
7-2 河川敷の利用状況	7-2
第8章 河道特性	8-1
第9章 河川管理の現状	9-1
9-1 河川管理区間	9-1
9-2 河川管理施設	9-3
9-3 河道内植生	9-4
9-4 水防体制	9-5
9-5 危機管理の取り組み	9-7
第10章 地域との連携	10-1

# 第1章 流域の自然条件

## 1 - 1 河川・流域の概要

矢部川は、その源を福岡県八女市矢部村の福岡、大分、熊本の3県にまたがる釈迦ヶ山地の三国山(標高994m)に発し、日向神峡谷の山間に流下し、八女市において、最大支川星野川を合わせ、さらに辺春川、白木川、飯江川等を合わせながら、また、山ノ井川、花宗川、沖端川を分派しながら有明海に注ぐ、幹川流路延長61km、流域面積647km<sup>2</sup>の福岡県内では、筑後川、遠賀川に次ぐ第三位の河川である。

その流域は、福岡県(八女市、筑後市、柳川市等)の5市2町からなり、上流域には、日向神峡谷と呼ばれる、神々の伝説を秘めた大岩壁や白糸の滝等がある。この周辺では豊かな自然が残されており、上流部の星野川合流付近から上流一帯が、矢部川県立自然公園に指定されている。中流域には、矢部川のシンボルでもあるクスノキ林が川沿いに群生し、ゲンジボタルもクスノキ同様、国の天然記念物に指定されている。下流域は、有明沿岸の海苔養殖漁業の拠点として発展した漁港が存在するなど、独特の河川景観を創り出しており、さらに下ると河口に至りここは有明海特有の干潟を形成している。

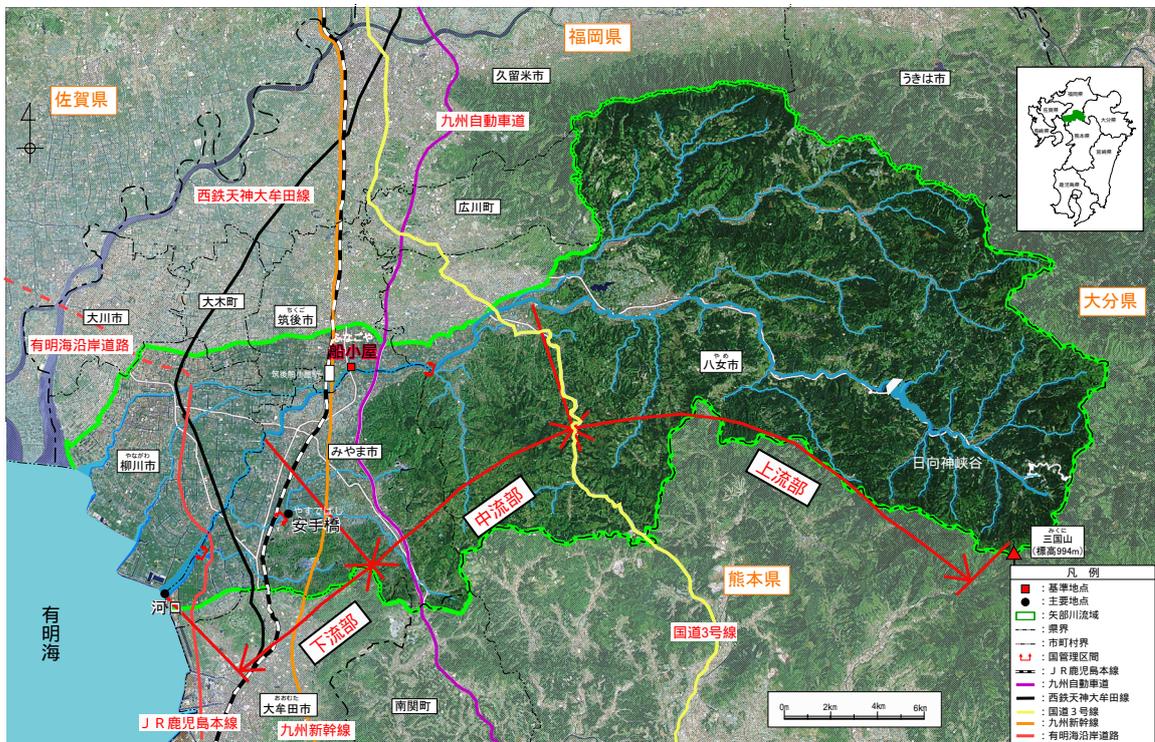


図-1.1 矢部川水系流域図



図-1.2(1) 矢部川上流部(日向神ダム)



図-1.2(2) 矢部川中流部(基準地点：船小屋)



図-1.2(3) 矢部川下流部(河口)

【出典：矢部川航空写真（H16）】

## 1 - 2 地形

矢部川流域の上流部の地形は東側の釈迦ヶ岳山地を中心として矢部川、御側川、縦鶴川、星野川などによって浸食された谷密度が大きく複雑で急峻な山地を形成している。大部分が杉林であるが、山頂部はブナ林が植生している。上流部の北側の耳納山地は、傾動地塊山地の特徴が見られ、ほぼ東西に走る構造線に沿って、横山川、星野川などの浸食谷が刻まれている。上流部の南側の筑肥山地は開析が進み、傾斜が緩やかな山地となっている。

中流部は高位段丘、扇状地性低地となっており高位段丘部には果樹園、茶畑が多く見られ、扇状地性低地部は大部分が水田であるが堆積によって高くなった土地には、集落以外に畑、茶畑、果樹園などに利用されているところが見られる。

下流部は三角州性低地で矢部川水系の堆積による微細な泥土質から成る典型的な低湿地で、クリーク網が発達しており大部分が水田である。

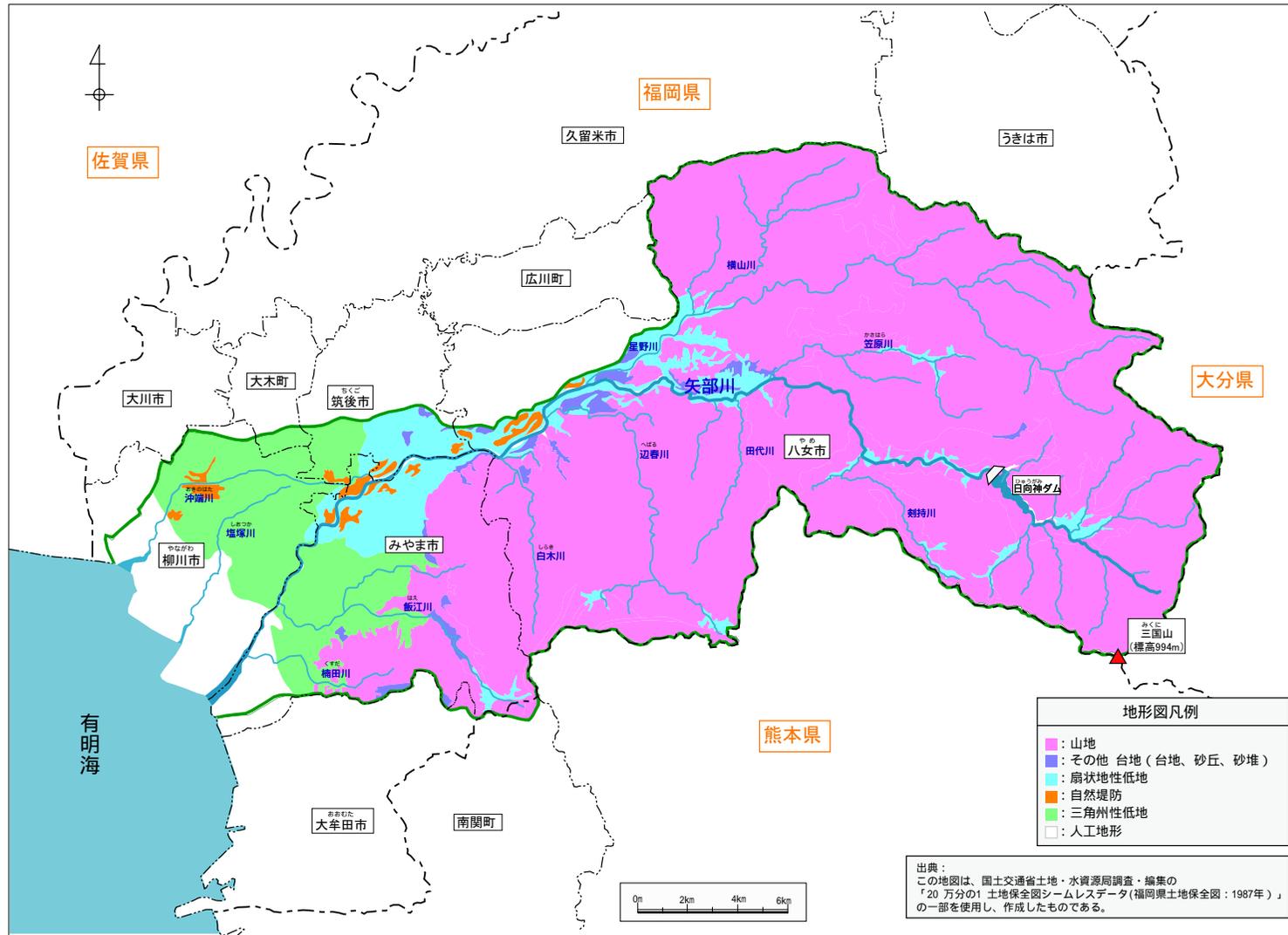


図-1.3 矢部川流域地形図

### 1 - 3 地質

矢部川流域の地質は、上流部の東側の釈迦ヶ岳山地は、大部分が輝石安山岩きせきあんざんがんや、粗大な火山岩屑かざんがんせつが火山灰によって凝結された凝灰質角礫岩ぎょうかいしつかくれきがんである。矢部川上流の谷には変成岩へんせいがんがみられ、一部には阿蘇山の溶結凝灰岩ようけつぎょうかいがんが堆積している。この、阿蘇溶結凝灰岩は、硬度が弱く加工が容易であるため古くから石材として利用されてきた。八女地方の古墳群の石造物や、現在、八女地方の特産品となっている八女石灯籠の材料となっている。

上流部の北側の耳納山地、南側の筑肥山地は、筑後（三郡）変成岩とよばれる岩石から成り、黒色砂質準片岩こくしよくさしつじゅんぺんがん・緑色準片岩りょくしよくじゅんぺんがんなどが大部分を占めている。

矢部川と笠原川かさばらの合流点付近黒木盆地北東の星野川との間にある豊岡台地、および八女台地は洪積世の堆積物である。八女台地の高位段丘は、火山性岩石の赤色系礫層で「吉田礫層」とよばれる地層である。中位段丘・低位段丘は、礫層上部に褐色細粒火山灰かつしよくさいりゅうかざんぼい、軽石質ローム層、八女粘土層などがある。八女市街地周辺から筑後市南部・西部、さらに西の低地は、砂、粘土などの沖積層で西へ向かうほど細粒化している。



#### 1 - 4 気候・気象

矢部川流域は、上流部は山地型、下流部は内陸型気候区に属しており、代表地点における年平均気温は下流部で約 16℃、上流部で約 15℃ である。

月別平均降水量における 6、7 月の平均降水量は下流部で約 330mm、上流部で約 390mm となり、年平均降水量は下流部で約 1,750mm、上流部で 2,020mm であり、上流部における降水量が多い。

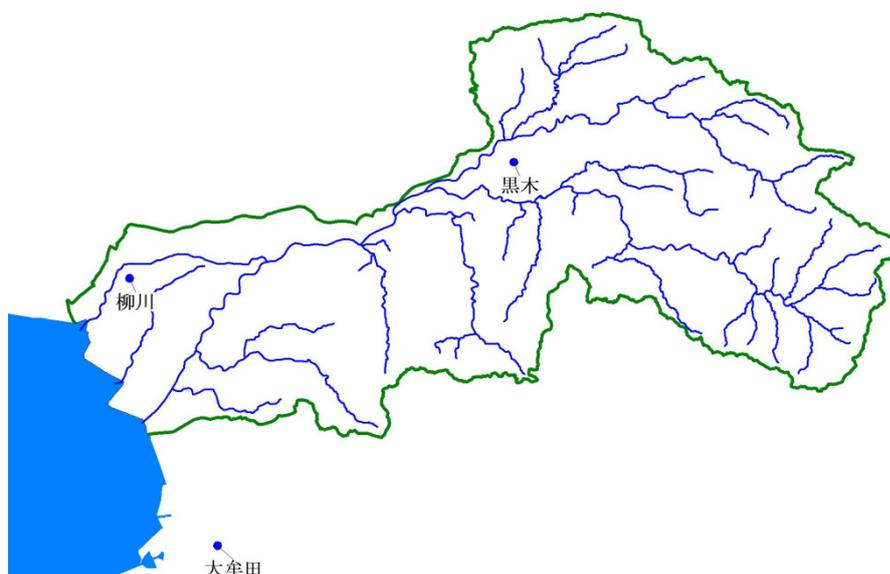


図-1.5 矢部川流域雨量観測所位置図（気象台）



図-1.6 代表地点の月別平均気温（気象台）

【出典：気象台気温データ（1981～2010）】

「柳川」では気温観測を実施していないため近傍の「大牟田」を引用

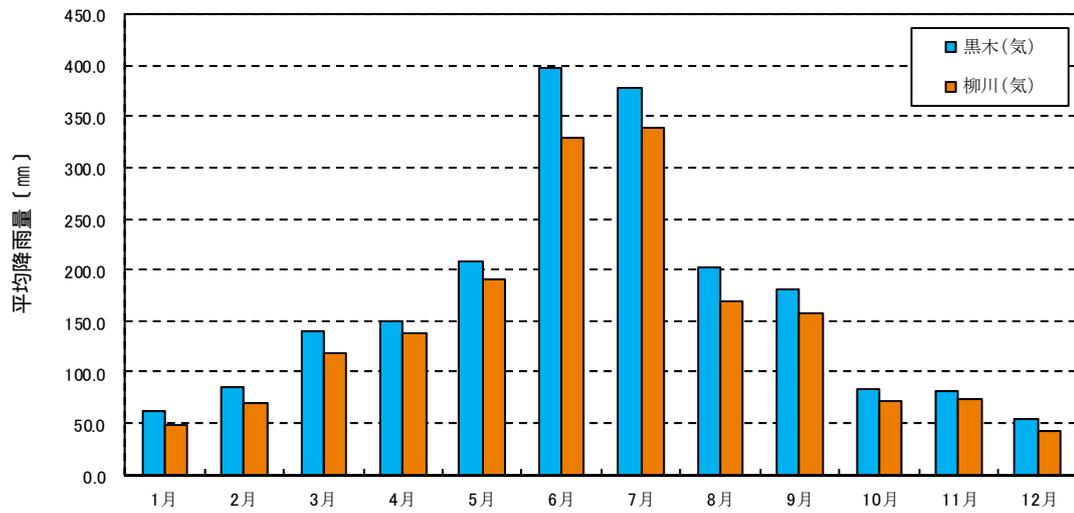


図-1.7 代表地点における月別平均降水量

【出典：気象台月別平均雨量データ（1981～2010）】

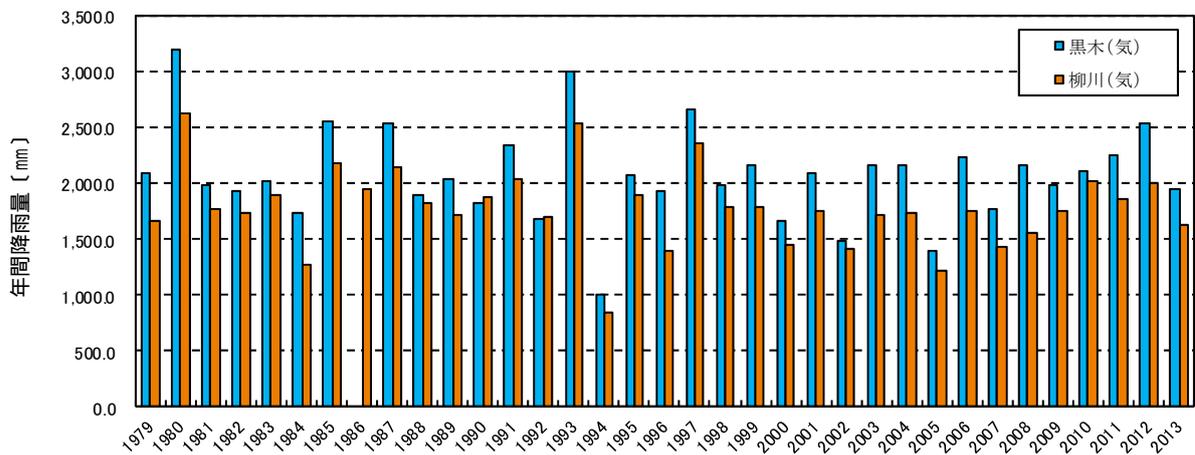


図-1.8 代表地点における年間降水量の変遷

【出典：気象台年間雨量データ（1979～2013）】

## 第2章 流域及び河川の自然環境

### 2 - 1 流域の自然環境

矢部川は、その源を三国山に発し、日向神峡谷の溪流を集め西流したのち、山間を離れ、八女市において、支川星野川を合わせる。さらに支川・辺春川、白木川等を合流し、基準地点船小屋下流で沖端川を分派し、筑後平野を蛇行しながら、途中、支川飯江川、楠田川くすだを合わせ、有明海に注いでいる。

源流から花宗堰までの上流部には、日向神峡谷と呼ばれる、神々の伝説を秘めた大岩壁や白糸の滝等がある。この周辺には豊かな自然が残されており、鳥類、昆虫類も多く生息している。

また、日向神峡谷を下り花宗堰に至る区間は、矢部川沿川に集落や果樹園が間近に迫る溪流区間であり、近くには、国の天然記念物に指定されている黒木大フジが見られる。

花宗堰から瀬高堰またかまでの中流部は、河岸にクスノキ林や竹林が帯状に分布しており、水際にはヨシやツルヨシ群落が生息し、一部にはマコモ群落も見られる。また、河原や中洲が形成されていることから、砂礫地を好むシギ・チドリ類が生息している。河道内は、瀬淵の変化に富んでおり、瀬や淵を好むオイカワやウグイが生息し、瀬はアユの産卵場ともなっている。初夏には清流を好むゲンジボタルの成虫も出現する。

瀬高堰から河口までの下流部は、感潮区間であり、アイアシ群落の前面には貴重な塩生植物群落が見られる。また、水域では汽水に生息するエツ等が見られ、河口付近は、有明海特有の河口干潟を形成しており、他の地域では見られないムツゴロウ、トビハゼ等、干潟特有の魚介類が生息している。また、この河口干潟には、多くの水鳥が訪れ、サギ類や、カモメ類等の干潟や沿岸部に生息する鳥類が見られる。

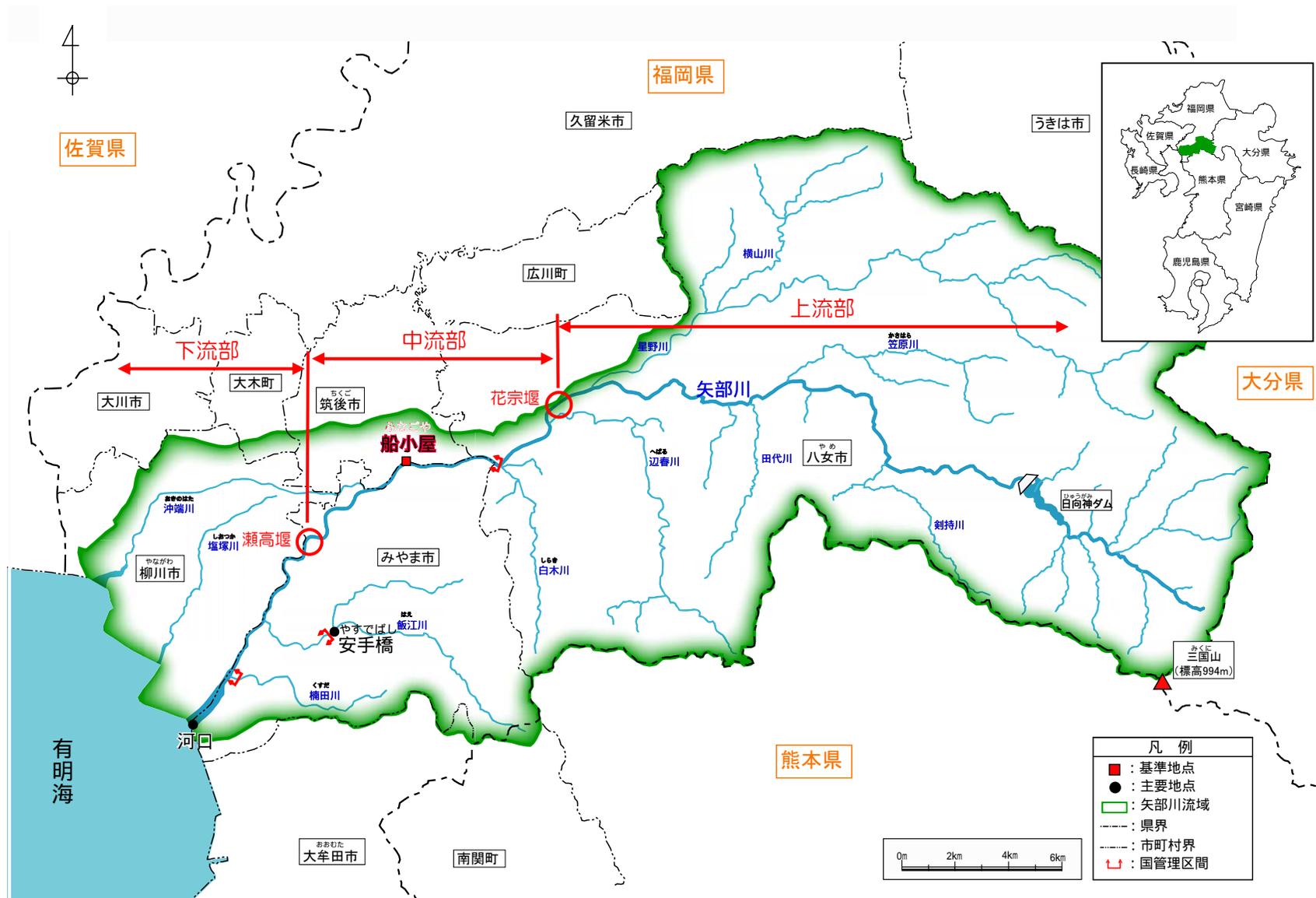


図-2.1 流域区分図

## 2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

### 1) 上流部

源流から花宗堰までの上流部は、スギ・ヒノキ等植林が分布する急峻な山地となっており、川は山間部を縫うように流下する。河床は、礫・大礫で形成され、河畔林と、瀬・淵が連続する美しい溪流環境を呈し、水際にはツルヨシが繁茂し、水域には、カジカやサワガニ等が生息する。

上流域では、タカハヤ、オイカワ、ウグイ、ヨシノボリ類等の多様な魚類が見られる。鳥類では水域にカワセミ、コガモ、マガモ、砂礫地にセグロセキレイ、水際の植物にホオジロ、カワラヒワが見られる。



ウグイ



カジカ



タカハヤ

## 2) 中流部

花宗堰から瀬高堰までの中流部は、扇状地に広がる田園地帯や点在する市街地を貫流する。河床は、礫、砂で形成され、水際にはヨシやツルヨシ群落が、河岸にはクスノキ林や竹林等の河畔林が帯状に分布し、水面を覆っている。水域には瀬や淵が形成され、淵には河畔林からの落下昆虫や小魚等を餌とするカワムツ等が生息し、瀬はアユ等の産卵場となっている。川幅は変化に富み、広い箇所には細流やワンド等が形成され、カワニナやゲンジボタル、タナゴ類等が生息するなど、水域の連続性による多様性が見られる。特に、樹齢300年を超える船小屋のクスノキ林やその周辺のゲンジボタル発生地は国の天然記念物にも指定されている。船小屋から瀬高堰までは湛水区域となっており、高水敷にはヨシ等のイネ科草本の大規模な群落が見られ、オオヨシキリ等の草地を好む鳥類が生息している。



ヤリタナゴ



ゲンジボタル



アユ

### 3) 下流部

瀬高堰から河口までの下流部は、干拓により広がった田園地帯を緩やかに蛇行しながら流下する。瀬高堰より下流は汽水域となっており、有明海特有のアリアケシラウオ等が生息する。水際にはヨシ群落が生育し、フクドやヒロハマツナ等の貴重な塩生植物群落も見られ、河口付近の干潟には、ムツゴロウ、ハラグクレチゴガニ等が生息し、それらを捕食するシギ類等の水鳥が訪れる。



フクド



ムツゴロウ



ヒロハマツナ



ヨシ群落

#### 4) 矢部川の生物

##### 生物相の概要

河川水辺の国勢調査結果をもとに、各生物相の概要を整理し、表-2.1に示す。

表-2.1 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
植物	平成19年度の現地調査(植物相)では111科605種の植物が確認されている。平成23年度の現地調査(植生調査)では49科132種が確認されている。 重要種は、植物相調査においてアオヒメタデ、コギシギシ、ヒロハマツナ、ハマサジ、フクド、ヤガミスゲ等の12種が確認され、植生調査においてヒロハマツナ、ハマサジ、クソニンジン、フクド等の5種が確認されている。 特定外来生物は、植物相調査においてアレチウリとオオキンケイギクが確認され、植生調査においてアレチウリ、ブラジルチドメグサ、オオキンケイギクが確認されている。
魚類	平成22年度の現地調査では29科76種の魚類が確認されている。このうち純淡水魚が約41%、汽水・海水魚が約50%、回遊魚が約9%となっている。 感潮域ではエツ、アリアケシラウオ、ヤマノカミ等の汽水・海水域の重要種が14種、日本国内では有明海だけに分布が限られている有明海特産種(固有種)が7種確認され、淡水域ではニッポンバラタナゴ、メダカ、オヤニラミ等の河岸植生や砂礫等の環境に依存した11種が確認されている。 特定外来生物は、オオクチバスとブルーギルが確認されている。
底生動物	平成21年度の現地調査では111科200種の底生動物が確認されている。このうち昆虫綱が85種で約43%、腹足綱・二枚貝綱が44種で約22%、軟甲綱が41種で約21%を占めている。 重要種は、主に有明海に面する河口干潟を反映して多くの貝類(腹足綱・二枚貝綱)やカニ類(軟甲綱)で構成される17科26種が確認された。その内、約88%に相当する23種が感潮域で確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
鳥類	平成24年度の現地調査では13目34科105種の鳥類が確認されている。渡り区分の内訳は、留鳥が46種で約44%、夏鳥が10種で約10%、冬鳥が35種で約33%、旅鳥が11種で約10%、外来種が3種で約3%となっている。 重要種は、ササゴイ、ミサゴ、イカルチドリ、タゲリ、コアジサシ、ヤマセミ、オオヨシキリ等の20種が確認されている。 特定外来生物は、ソウシチョウが確認されている。
両生類 爬虫類 哺乳類	平成17年度の現地調査では両生類4種、爬虫類5種、哺乳類9種が確認されている。 重要種は、爬虫類のニホンスッポン、哺乳類のカヤネズミが確認されている。 特定外来生物は、両生類のウシガエルが確認されている。
陸上昆虫類	平成20～21年度の現地調査では804種(昆虫類725種、クモ類79種)が確認されている。確認種のうちコウチュウ目が231種で約29%、ハエ目が108種で約13%、カメムシ目が104種で約13%、チョウ目が94種で約12%を占めている。 重要種は、セマルケシマグソコガネ、コムラサキ、フクロクヨコバイの3種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。

表-2.2 矢部川における河川水辺の国勢調査の実施状況

調査項目	調査年度																							
	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
河川調査[瀬・淵]																								
魚介類調査																								
底生動物調査																								
植物調査																								
鳥類調査																								
両生類・爬虫類・哺乳類調査																								
陸上昆虫类等調査																								

調査項目の序列は、「河川水辺の国勢調査マニュアル」に準拠して整理している。

特定種

学術上の重要性及び希少性の観点から、表 2-3 に示す選定基準に該当する種を重要種として選定した。表-2.3 に矢部川の重要種を示す。

表-2.3(1) 重要種選定基準

文献 No.	区分	所管管理者	年度	内 容	選定対象	内略号
1	文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等 のうち重要なものを天然記 念物に指定	国指定天然記念物 国天 都道府県指定天然記念物 県天 市町村指定天然記念物 市町天	
2	絶滅のおそれのある 野生動植物の種の保存 に関する法律	環境庁	1993	絶滅のおそれのある野生動 植物種を指定し、保護、譲渡、 輸出入等を規制	国内稀少野生動物種 絶滅 (対象：植物、魚類、鳥類、 両生類、爬虫類、哺乳類、 昆虫類)	
3	報道発表資料 平成 24 年 8 月 28 日 第 4 次レッドリストの 公表について	環境省	2012	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生 類、昆虫類、貝類、その他無 脊椎動物(クモ形類、甲殻類 等)、植物 I(維管束植物)、 植物 II(維管束植物以外：蘚 苔類、藻類、地衣類、菌類) を対象	絶滅 EX 野生絶滅 EW 絶滅危惧 A 類 CR 絶滅危惧 B 類 EN 絶滅危惧 類 CR+EN 絶滅危惧 類 VU 準絶滅危惧 NT	
	報道発表資料 平成 25 年 2 月 1 日 第 4 次レッドリストの 公表について(汽水・ 淡水魚類)	環境省	2013	汽水・淡水魚類を対象	情報不足 DD 絶滅のおそれのある 地域個体群 LP	
4	福岡県の希少野生生物 - 福岡県レッドデー タブック 2001 -	福岡県	2001	福岡県における絶滅のおそ れのある野生生物を選定	絶滅<EX> 野生絶滅<EW> 絶滅危惧 A 類<CR> 絶滅危惧 B 類<EN> 絶滅危惧 類<CR ~ EN> 絶滅危惧 類<VU> 絶滅危惧<CR ~ VU> 準絶滅危惧<NT>	
	福岡県の希少野生生物 - 福岡県レッドデー タブック 2011 -	福岡県	2011	植物群落・植物・哺乳類・鳥 類を対象とした改訂版	情報不足<DD> 天然不明<UK> 保全対策依存<CD> 絶滅のおそれのある 地域個体群<LP>	
5	「自然公園法」におけ る指定植物	福岡県		矢部川県立自然公園内にお ける指定植物に指定	矢部川県立自然公園指定植 物 県公園	
6	第 2 回 自然環境保全基礎調査 (特定植物群落調査)	環境庁	1978	学術上重要な群落、保護を必 要とする植物群落を選定	特定植物群落 重要	

出典：各種レッドデータブック概要より

表-2.3(2) 矢部川水系で確認された重要種(1)

生物	重要種	
魚類	ニホンウナギ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：準絶滅危惧) エツ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：絶滅危惧類) ヤリタナゴ(環境省：準絶滅危惧,福岡県RDB：準絶滅危惧) アブラボテ(環境省：準絶滅危惧) セボシタビラ(環境省：絶滅危惧ⅠA類,福岡県RDB：絶滅危惧ⅠA類) カネヒラ(福岡県RDB：準絶滅危惧) ニッポンバラタナゴ(環境省：絶滅危惧ⅠA類,福岡県RDB：絶滅危惧類) カゼトゲタナゴ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：絶滅危惧類) カワヒガイ(環境省：準絶滅危惧) ゼゼラ(環境省：絶滅危惧類,福岡県RDB：) ドジョウ(環境省：情報不足,福岡県RDB：絶滅危惧類) ヤマトシマドジョウ(環境省：絶滅危惧類) アリアケギバチ(環境省：絶滅危惧類,福岡県RDB：準絶滅危惧) アユ(福岡県RDB：天然不明) アリアケシラウオ(環境省：絶滅危惧ⅠA類,福岡県RDB：絶滅危惧ⅠA類) アリアケヒメシラウオ(環境省：絶滅危惧ⅠA類,福岡県RDB：絶滅危惧ⅠA類) メダカ南日本集団(環境省：絶滅危惧類,福岡県RDB：準絶滅危惧) クルメサヨリ(環境省：準絶滅危惧,福岡県RDB：絶滅危惧ⅠA類) ガンテンイシヨウジ(福岡県RDB：情報不足) ヤマノカミ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：準絶滅危惧) カジカ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：野生絶滅) オヤニラミ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：準絶滅危惧) スズキ(環境省：絶滅のおそれのある地域個体群) カワアナゴ(福岡県RDB：準絶滅危惧) タビラクチ(環境省：絶滅危惧類,福岡県RDB：絶滅危惧類) ムツゴロウ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県RDB：絶滅危惧類) トビハゼ(環境省：準絶滅危惧,福岡県RDB：絶滅危惧ⅠB類) ワラスボ(環境省：絶滅危惧類) ハゼクチ(環境省：絶滅危惧類,福岡県RDB：準絶滅危惧) ショウキハゼ(環境省：準絶滅危惧)	30種

表-2.3(2) 矢部川水系で確認された重要種(2)

生物	重要種	
底生動物	イシマキガイ(福岡県 RDB:絶滅危惧 類) ヒロクチカノコガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) クロヘナタリガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) シマヘナタリガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) カワグチツボ(環境省:準絶滅危惧) オオクリイロカワザンショウガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) ムシヤドリカワザンショウガイ(環境省:準絶滅危惧,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) ヤミカワザンショウ(環境省:準絶滅危惧) カワザンショウガイ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) アズキカワザンショウガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) ウミゴマツボ(環境省:準絶滅危惧) サキグロタマツメタガイ(環境省:絶滅危惧Ⅰ類) マルテンスマツムシ(環境省:絶滅危惧Ⅰ類) ヤベカワモチ(環境省:絶滅危惧 類) センベリアワモチ(環境省:絶滅危惧Ⅰ類) ナラビオカミミガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) オカミミガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) クリイロコミミガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) キヌカツギハマシイノミガイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) ウミマイマイ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) モノアラガイ(環境省:準絶滅危惧) ヒラマキミズマイマイ(環境省:情報不足,福岡県 RDB:絶滅危惧 類) クルマヒラマキガイ(環境省:絶滅危惧 類) ヒラマキガイモドキ(環境省:準絶滅危惧) ササゲミミエガイ(環境省:絶滅危惧 類) ハイガイ(環境省:絶滅危惧 類) テリザクラガイ(環境省:絶滅危惧 類) ウネナシトマヤガイ(環境省:準絶滅危惧) ヤマトシジミ(環境省:準絶滅危惧) マシジミ(環境省:絶滅危惧 類) ハナグモリガイ(環境省:絶滅危惧 類) ヒメムツアシガニ(福岡県 RDB:情報不足) ムツハアリアケガニ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) アリアケガニ(福岡県 RDB:絶滅危惧) アリアケモドキ(福岡県 RDB:絶滅危惧) ハラグクレチゴガニ(環境省:準絶滅危惧,福岡県 RDB:絶滅のおそれのある地域個体群) シオマネキ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県 RDB:絶滅危惧) ハマガニ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) ヒメアシハラガニ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) クシテガニ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) ベンケイガニ(福岡県 RDB:絶滅危惧) ウモレベンケイガニ(福岡県 RDB:準絶滅危惧) タベサナエ(環境省:準絶滅危惧) カワゴケミズメイガ(環境省:準絶滅危惧) ヨコミゾドロムシ(環境省:絶滅危惧 類)	45 種

表-2.3(2) 矢部川水系で確認された重要種(3)

生物	重要種	
植物	<p>チスジノリ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧Ⅰ類)  ツマグロカワモズク(環境省：絶滅危惧 類)  アオカワモズク(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ヒノキ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  アオヒメタデ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ネバリタデ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  コギシギシ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ウシオツメクサ(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠA類)  ヒロハマツナ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  ニッケイ(環境省：準絶滅危惧)  ツキヌキオトギリ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  コイスガラシ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ハマボウ(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ミズマツバ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ミラタチバナ(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  ハマサジ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ロクオンソウ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠA類)  ミゾコウジュ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  シソクサ(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  カワヂシャ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  クソニンジン(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠA類)  フクド(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ウラギク(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  オグルマ(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  アズマガヤ(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠA類)  ヤガミスゲ(福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠB類)  船小屋のクスノキ林(国指定天然記念物,特定植物群落)  矢部川の河辺草本群落(特定植物群落)</p>	28種
鳥類	<p>ササゴイ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  アマサギ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  チュウサギ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ツクシガモ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  オシドリ(環境省：情報不足,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  アカハジロ(環境省：情報不足)  ミサゴ(環境省：準絶滅危惧)  ハイトカ(環境省：準絶滅危惧)  ノスリ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  チュウヒ(環境省：絶滅危惧ⅠB類,福岡県 RDB：絶滅危惧ⅠA類)  ハヤブサ(国内希少野生動物種,環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  コチョウゲンボウ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  クイナ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ヒクイナ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  イカルチドリ(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  シロチドリ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  タゲリ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ハマシギ(環境省：準絶滅危惧,福岡県 RDB：準絶滅危惧)  ダイシャクシギ(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  セイタカシギ(環境省：絶滅危惧 類)  ツバメチドリ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ズグロカモメ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  コアシサシ(環境省：絶滅危惧 類,福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  アオバズク(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ヤマセミ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  コシアカツバメ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  クロツグミ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  オオヨシキリ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  オオルリ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  コサメビタキ(福岡県 RDB：情報不足)  サンコウチョウ(福岡県 RDB：絶滅危惧 類)  ツリスガラ(福岡県 RDB：準絶滅危惧)  カササギ(国指定天然記念物)</p>	33種

表-2.3(2) 矢部川水系で確認された重要種(4)

生物	重要種	
両生類	トノサマガエル(福岡県 RDB : 絶滅危惧 I B 類)	1 種
爬虫類	ニホンスッポン(環境省 : 情報不足, 福岡県 RDB : 準絶滅危惧)	1 種
哺乳類	カヤネズミ(福岡県 RDB : 絶滅危惧) キツネ(福岡県 RDB : 準絶滅危惧)	2 種
陸上昆虫類	キシノウエトタテゲモ(環境省 : 準絶滅危惧) キイロサナエ(環境省 : 準絶滅危惧) タバサナエ(環境省 : 準絶滅危惧) ウスバカマキリ(環境省 : 情報不足) フクロクヨコバイ(環境省 : 準絶滅危惧) クロアシブトハナカメムシ(環境省 : 準絶滅危惧) ベニツチカメムシ(福岡県 RDB : 準絶滅危惧) オオアメンボ(福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) ハイイロボクトウ(環境省 : 準絶滅危惧, 福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) コムラサキ(福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) ヒカゲチョウ(福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) シロホソバ(環境省 : 準絶滅危惧) キシタアツバ(環境省 : 準絶滅危惧) ギンモンアカヨトウ(環境省 : 絶滅危惧 類) スナハラゴミムシ(環境省 : 絶滅危惧 類) アオヘリホソゴミムシ(福岡県 RDB : 準絶滅危惧) スジヒラタガムシ(環境省 : 準絶滅危惧) シジミガムシ(環境省 : 絶滅危惧 I B 類) オオツノハネカクシ(環境省 : 情報不足) セマルケシマグソコガネ(福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) ジュウサンホシテントウ(福岡県 RDB : 絶滅危惧 類) ヤマトアシナガバチ(環境省 : 情報不足) スギハラベッコウ(環境省 : 情報不足) クロマルハナバチ(環境省 : 準絶滅危惧) クズハキリバチ(環境省 : 情報不足)	25 種

## 2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

### 1) 矢部川の歴史的環境

矢部川の流域は「九州<sup>やまとくに</sup>邪馬台国」の舞台とも言われ、歴史的な多くの史跡が残っているところでもある。

特に、八女の古墳群はその代表的なもので、その中の一つ、<sup>いわとやま</sup>岩戸山古墳は、九州地方では最大級の前方後円墳といわれており、筑後風土記にある<sup>つくしのきみいわい</sup>筑紫君磐井の墓ともいわれている。その他、神社・仏閣も数多く分布していることが特徴の一つに挙げられる。

また、矢部川の歴史を振り返ると、藩政時代、久留米藩・柳川藩により堤防などを行ったのが本格的な治水事業の始まりと言われている。

この中で1590年頃、<sup>たじりそうま</sup>田尻総馬による<sup>せんげんどうい</sup>千間土居等の築造にあたっては、現在の矢部川のシンボルともなっているクスノキや竹林が、堤防を守るため植えられた。

現在、このクスノキは約1,000本近く残っており、全国的に稀なクスノキ中心の治水防備保安林として中流域の河川高水敷をはじめとして分布している。

また、矢部川の水は、古くから灌漑用水として利用されてきた。特に久留米藩と柳川藩が矢部川を境に国割りされて以来、争いは絶え間なく続き、<sup>かいすいろ</sup>廻水路という矢部川独特の利水システムを生み出した。これは、自ら設けた堰の水を他藩の堰に落とさないよう廻水路、いわゆるバイパスをつくったもので、当時の激しい水争いの歴史を物語っていると言える。

矢部川が位置する筑後平野は、九州最大の平野で、久留米市・佐賀市をはじめ多くの都市が分布している。矢部川流域にも水郷で知られる柳川市、お茶で名高い八女市、そして筑後市等の街が位置する。しかし、上流の町や村では過疎化の現象により急激な人口の減少、そして高齢化となっているのも、矢部川流域の特徴の一つに挙げられる。

また、矢部川沿いの船小屋温泉は、観光地として知られ多くの人手で賑わうところである。

【出典：矢部川の歴史 水利編】

## 2) 観光・景勝地

矢部川流域は、豊かな自然環境を有し観光資源としても多くの人々に利用されている。上流域では筑後川県立自然公園、矢部川県立自然公園として指定されており、キャンプ地などや自然散策の場になっている。中流域では、中ノ島公園を中心として子供の水遊びの場や遠足・写生大会などに利用されている。下流域では国内最大の干満差を有する有明海に注ぎ、特徴的な生物等の生息域となっている。



筑後川県立自然公園



矢部川県立自然公園



矢部川中ノ島公園



河口部の干潟状況

### 3) 文化財

表-2.4 国指定の文化財(文化財・名勝・天然記念物等)

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
1	天然記念物	黒木のフジ	八女市	昭和3年1月31日
2	重要伝統的建造物群保存地区	八女市黒木	八女市	平成21年6月30日
3	重要文化財(古文書)	五条家文書	八女市	昭和13年7月4日
4	重要文化財(建造物)	松延家住宅	八女市	昭和52年1月28日
5	無形民俗文化財	はんや舞	八女市	昭和53年1月31日
6	国宝(工芸)	短刀 銘吉光ノ	柳川市	昭和28年11月14日
7	重要文化財(工芸)	劔 銘 長光	柳川市	昭和12年5月25日
8	重要文化財(古文書)	大友家文書	柳川市	平成5年6月14日
9	重要文化財(古文書)	鷹尾神社大宮司家文書	柳川市	平成11年6月7日
10	重要文化財(古文書)	立花家文書	柳川市	平成16年6月8日
11	名勝	松濤園	柳川市	昭和53年8月25日
12	名勝	戸島氏庭園	柳川市	昭和53年8月25日
13	無形文化財	久留米餅	久留米市 広川町	昭和32年4月25日 昭和51年4月3日
14	天然記念物	カササギ生息地	柳川市 筑後市 みやま市	大正12年3月7日
15	天然記念物	船小屋ゲンジボタル発生地	筑後市 みやま市	昭和16年3月27日
16	名勝	清水寺本坊庭園	みやま市	昭和4年4月2日
17	史跡	女山神籠石	みやま市	昭和28年11月14日
18	重要無形民俗文化財	幸若舞	みやま市	昭和51年5月4日
19	天然記念物	新舟小屋のクスノキ林	みやま市	昭和49年6月18日
20	史跡	石神山古墳	みやま市	昭和51年2月6日

【出典：文化庁 国指定文化財等データベース (<http://www.bunka.go.jp/bsys/index.asp>)】

【出典：福岡県の文化財 (<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp>)】

表-2.5 県指定の文化財(史跡・名勝・天然記念物)

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
1	史跡	童男山古墳(八女古墳群)	八女市	昭和31年7月28日
2	天然記念物	山内のチシャノキ	八女市	昭和33年11月13日
3	天然記念物	轟区のビャクシン	八女市	昭和61年8月28日
4	有形文化財(彫刻)	木造聖観音立像	八女市	昭和53年3月25日
5	無形民俗文化財	田代の風流	八女市	昭和51年4月24日
6	無形民俗文化財	旭座人形芝居	八女市	昭和51年4月24日
7	史跡	猫尾城跡	八女市	昭和58年3月19日
8	天然記念物	霊巖寺の奇岩	八女市	昭和35年1月12日
9	天然記念物	津江神社の大楠	八女市	昭和29年12月28日
10	天然記念物	荒谷のカエデ	八女市	昭和54年3月6日
11	天然記念物	空室のカツラ	八女市	平成元年5月18日
12	天然記念物	円福寺のビャクシン	八女市	昭和33年11月13日
13	天然記念物	タイサンボクとハクモクレンの癒着木	八女市	昭和33年11月13日
14	有形文化財(彫刻)	木造薬師如来立像	八女市	平成5年7月2日
15	無形民俗文化財	はんや舞	八女市	昭和51年4月24日
16	史跡	旧久留米藩・天領日田国境石	八女市	平成9年7月25日
17	天然記念物	桁山の樞の木	八女市	昭和48年11月15日
18	天然記念物	室山熊野神社の杉	八女市	昭和48年11月15日
19	天然記念物	麻生池のオグラコウホネ自生地	八女市	平成13年2月14日
20	無形民俗文化財	八女津媛神社の浮立	八女市	昭和51年4月24日
21	有形文化財(建造物)	旧戸島氏邸	柳川市	昭和32年4月23日
22	有形文化財(考古資料)	三尊預修板碑	柳川市	昭和44年9月4日
23	無形民俗文化財	どろつくどん	柳川市	昭和51年4月24日
24	無形民俗文化財	日子山神社風流	柳川市	昭和51年4月24日
25	無形民俗文化財	今古賀風流	柳川市	昭和51年4月24日
26	史跡	安東省庵墓	柳川市	昭和33年4月3日
27	史跡	北原白秋生家	柳川市	昭和43年10月12日
28	天然記念物	中山の大フジ	柳川市	昭和52年4月9日
29	有形文化財(建造物)	光明寺の石造九重塔	筑後市	昭和36年10月21日
30	有形文化財(考古資料)	滑石経	筑後市	昭和30年3月12日
31	有形文化財(彫刻)	石造狛犬	筑後市	昭和36年10月21日
32	天然記念物	水田の森(クス、カシ)	筑後市	昭和36年10月21日
33	有形民俗文化財	木造獅子頭	筑後市	昭和36年1月14日
34	有形民俗文化財	木造火水玉王面	筑後市	昭和36年1月14日
35	有形民俗文化財	石造狛犬	筑後市	昭和37年7月26日
36	無形民俗文化財	稚児風流	筑後市	昭和51年4月24日
37	無形民俗文化財	千燈明	筑後市	昭和51年4月24日
38	有形文化財(建造物)	清水寺三重塔	みやま市	昭和30年3月12日
39	有形文化財(建造物)	清水寺楼門	みやま市	昭和36年4月18日
40	無形民俗文化財	どんきやんきやん	みやま市	昭和54年3月6日
41	有形民俗文化財	大人形・大提灯	みやま市	昭和31年1月16日
42	有形文化財(考古資料)	法華経千部逆修板碑	みやま市	昭和33年11月13日
43	有形文化財(考古資料)	貝製雲珠	みやま市	昭和34年3月31日
44	史跡	金粟遺跡	みやま市	昭和33年4月3日
45	天然記念物	長田のイチョウ	みやま市	平成16年2月18日
46	史跡	矩手水門 (旧柳河藩干拓遺跡)	みやま市	平成20年3月31日
47	無形民俗文化財	宝満神社奉納能楽	みやま市	昭和51年4月24日
48	史跡	新開村旧てい記碑	みやま市	昭和30年3月5日

【出典：福岡県の文化財 (<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp>)】

【出典：みやま市(文化財) ([http://www.city.miyama.lg.jp/info/prev.asp?fol\\_id=2159](http://www.city.miyama.lg.jp/info/prev.asp?fol_id=2159))】

【出典：柳川市 web サイト：文化財 (<http://www.city.yanagawa.fukuoka.jp/life/study/culp/index.html>)】

【出典：八女市について【八女市公式ホームページ】 (<http://www.city.yame.fukuoka.jp/aboutyame/aboutyame.html>)】

【出典：福岡県造園業協会 福岡県内の天然記念物(樹木) (<http://www.fkz.or.jp/tennen/tennenn.htm>)】



### 第3章 流域の社会状況

#### 3-1 人口

矢部川流域の関係自治体は、筑後市や柳川市をはじめ5市2町からなり、平成22年現在で流域内人口は約17万人、想定氾濫区域内人口は約11万人となっている。

表-3.1 流域内人口の推移

年次区分	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成15年 (人)	平成22年 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
流域内							182,889	166,123	
想定氾濫 区域内							116,383	114,981	
福岡県	4,027,416	4,292,963	4,553,461	4,719,259	4,811,050	4,933,393	5,015,699	5,071,968	1,019.0

【出典：流域内人口、想定氾濫区域内人口は「河川現況調査」】

表-3.2 流域関連人口の推移

市町村	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
<b>福岡県</b>	<b>4,027,416</b>	<b>4,292,963</b>	<b>4,553,461</b>	<b>4,719,259</b>	<b>4,811,050</b>	<b>4,933,393</b>	<b>5,015,699</b>	<b>5,049,908</b>	<b>5,071,968</b>
柳川市	45,789	45,057	45,587	44,942	43,791	43,245	41,815	74,539	71,375
八女市	38,848	38,843	39,408	40,286	39,816	39,818	39,610	38,951	69,057
筑後市	38,688	39,520	41,698	43,359	43,835	45,289	47,348	47,844	48,512
みやま市									40,732
大木町	12,885	12,528	12,721	13,177	13,232	13,525	13,862	14,282	14,350
黒木町	19,367	17,941	17,705	17,267	16,616	15,691	14,685	13,615	2
上陽町	5,834	5,670	5,483	5,240	4,953	4,508	4,223	3,867	2
立花町	15,923	15,156	14,904	14,549	14,055	13,430	12,530	11,662	2
矢部村	3,445	3,053	2,696	2,484	2,145	1,942	1,760	1,613	2
星野村	5,471	5,073	4,882	4,730	4,310	4,103	3,881	3,554	2
瀬高町	27,642	27,155	27,219	27,519	26,633	25,768	24,916	23,762	3
大和町	19,667	19,151	19,283	19,178	18,699	18,134	17,343	1	1
三橋町	16,807	16,776	17,315	17,743	18,041	18,427	18,454	1	1
山川町	6,662	6,347	6,412	6,324	6,318	6,122	5,711	5,391	3
高田町	18,564	18,255	17,782	17,766	17,053	16,038	15,081	14,219	3

※1 平成17年3月21日をもって柳川市、大和町、三橋町が合併し、現在の柳川市となる。

※2 平成18年10月1日に上陽町、平成22年2月1日に黒木町、立花町、星野村、矢部村が合併し、現在の八女市となる。

※3 平成19年1月29日に瀬高町、山川町、高田町が合併し、みやま市となる。

【出典：福岡県統計年鑑】

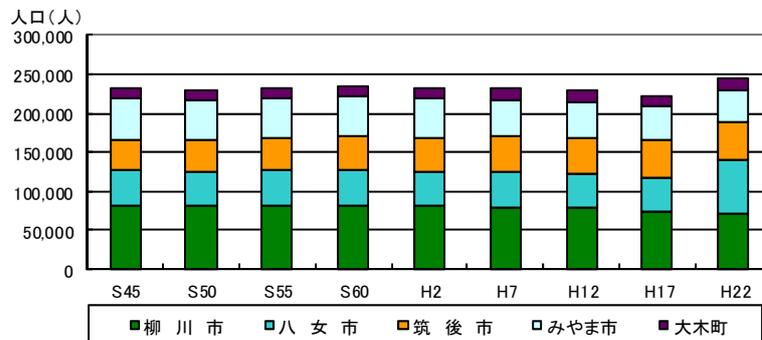


図-3.1 流域関連人口の推移

【出典：福岡県統計年鑑】

### 3 - 2 土地利用

#### 1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山林が全体の約74%を占め、水田や畑・果樹園等の農地が約24%、宅地等市街地が約2%の割合となっている。

表-3.3 土 地 利 用 の 現 況

項 目	面 積 (km <sup>2</sup> )	全面積に占める割合(%)
流 域 面 積	647.0	100
森 林 地 域	478.4	74
耕地面積(田・畑)	155.9	24
宅 地 そ の 他	12.7	2

【出典：平成22年3月第9回河川現況調査】

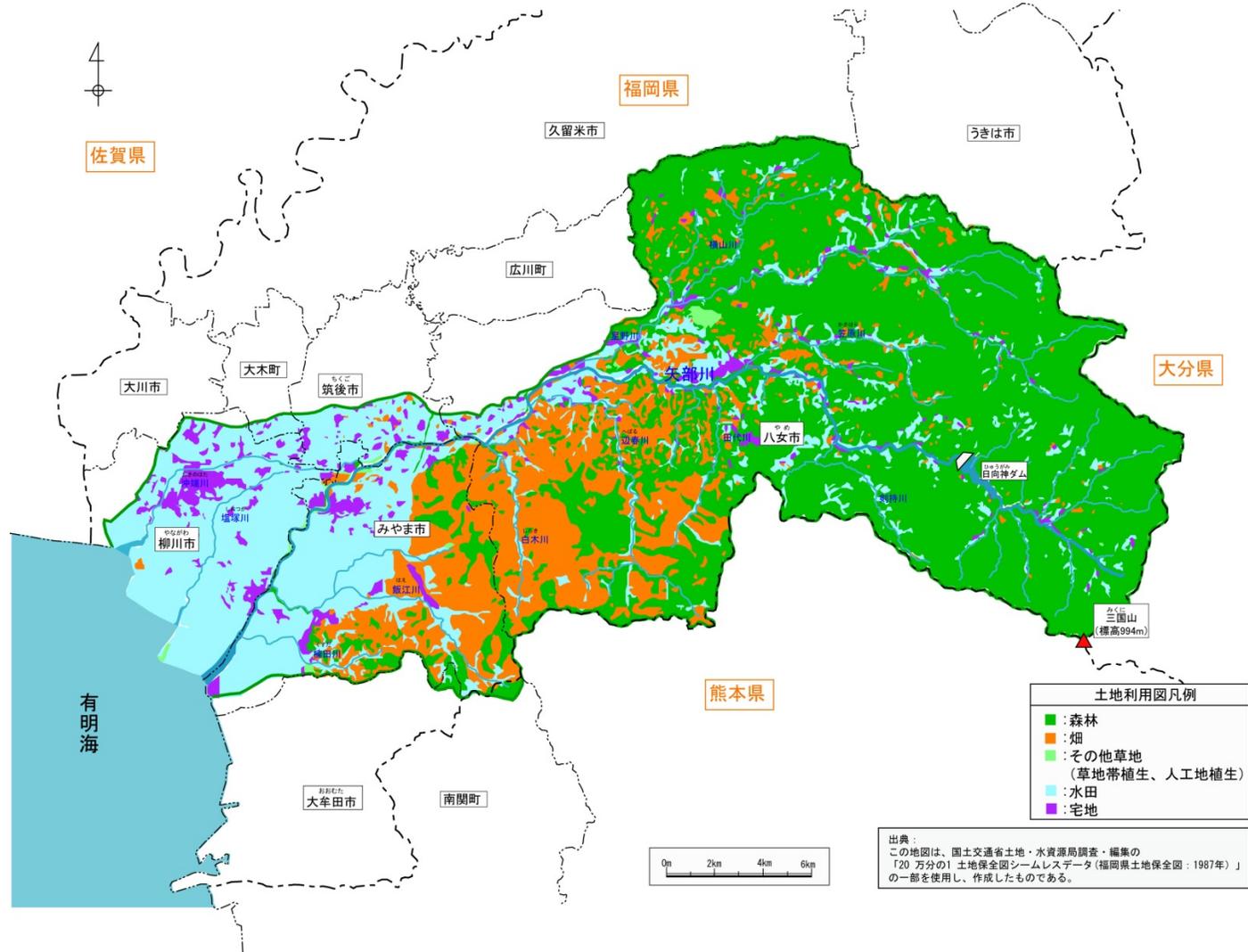


図-3.2 矢部川流域における土地利用図

## 2) 干拓の歴史

矢部川の下流域は、有明海の干拓によって開発されてきたもので、1400年ほど前から行われてきたと言われている。

大和町（現柳川市）では、今から400年ほど前の1601年（慶長7年）8月、当時の柳川藩主田中吉政が有明海沿岸32kmに慶長本土居を築いてから盛んに行われるようになった。これから海に向かって4kmほど先まで干拓が広がっていった。

だんだんと沖のほうへ干拓が広がると、満潮時は海水面が干拓地より高くなっていったため、柳川藩では1673年（寛文13年）に今までの土で築いた堤防の前面に石垣を積んで潮を止めるための潮土居を築いた。

さらに、1726年（享保11年）幕府令を受けて、藩士や藩による開発が盛んになり、急速に干拓地が広がった。藩営の干拓地として弁天開と住吉開を造成した。

【出典：大和町（現柳川市）パンフレット】



【出典：大和町（現柳川市）航空写真】

図-3.3 広がる干拓地（柳川市）

### 3 - 3 産業・経済

流域内の総資産額は平成 22 年 3 月時点で約 2 兆 6,585 億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内の主幹産業は、農業を中心とする 1 次産業で、矢部川上流では、木材・茶・みかん・酒が、また、有明海沿岸では、ノリ養殖が盛んである。

特に、茶は八女市を主産地としており、高級ブランド「八女茶」として全国的に知られ、なかでも八女市の中山間地にて生産される「玉露」は全国生産量の約 4 分の 1 を占め、「全国茶品評会 1」において『農林水産大臣賞 2』を受賞するなど高い評価を受けている。また、八女市は八女林業として優れた林業地帯としても知られ、その美林の産物として、しいたけ栽培も盛んである。

- 1 全国茶品評会：茶の生産改善と消費拡大を目的に開催される、茶における最高位の品評会
- 2 農林水産大臣賞：最高賞。玉露の部で平成 22 年度までに福岡県生産者（矢部川流域内）が 10 年連続受賞

表-3.4 流域内資産額（単位：億円）

家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
16,032	7,525	2,822	205	26,585

注) ( ) 書きは合計に対する比率

【出典：平成 22 年 3 月第 9 回河川現況調査】

表-3.5 流域内関連市町村の特産品

市町名	名産・特産品		
柳川市	<small>たためおもて</small> 豊表	有明のり	<small>かすづけ</small> 粕漬
八女市	八女茶	<small>でんしょうぎく</small> 電照菊	<small>てすきわし</small> 手漉和紙
筑後市	<small>あかさか</small> 赤坂人形（玩具）	赤坂あめ	<small>はなむねがま</small> 花宗窯
みやま市	みかん	なす	たけのこ

【出典：財団法人 福岡県市町村振興協会『福岡県市町村要覧 平成 25 年度版』】

### 3 - 4 交通

矢部川流域は、福岡県の南部に位置し、九州における交通の南北線（九州自動車道、国道 3 号、国道 209 号）と福岡県、大分県、熊本県を通る東西線（国道 442 号）が交差していて、九州地方の人流・物流に多く利用されている。

鉄道は、北九州、福岡から熊本、鹿児島へ至る J R 鹿児島本線及び九州新幹線が流域下流部を南北に縦断している。

また、西鉄大牟田線が J R 鹿児島本線と平行しながら流域を南北に縦断して福岡と久留米・大牟田を結んでいて、福岡都市圏と筑後川流域との人流に大きく貢献している。

一方道路については、J R 鹿児島本線と平行して九州の大動脈である九州自動車道が流域を縦貫している。

さらに、流域内には、下流部の国道 3 号や 209 号、下流と上流を結ぶ 442 号を含めて 5 本の国道が走り、その国道から分岐して主要地方道や一般県道、市町村道が整備されており、地域の発展に重要な役割を果たしている。また、有明海沿岸道路の開通によりさらに利便性が増すものと期待されている。

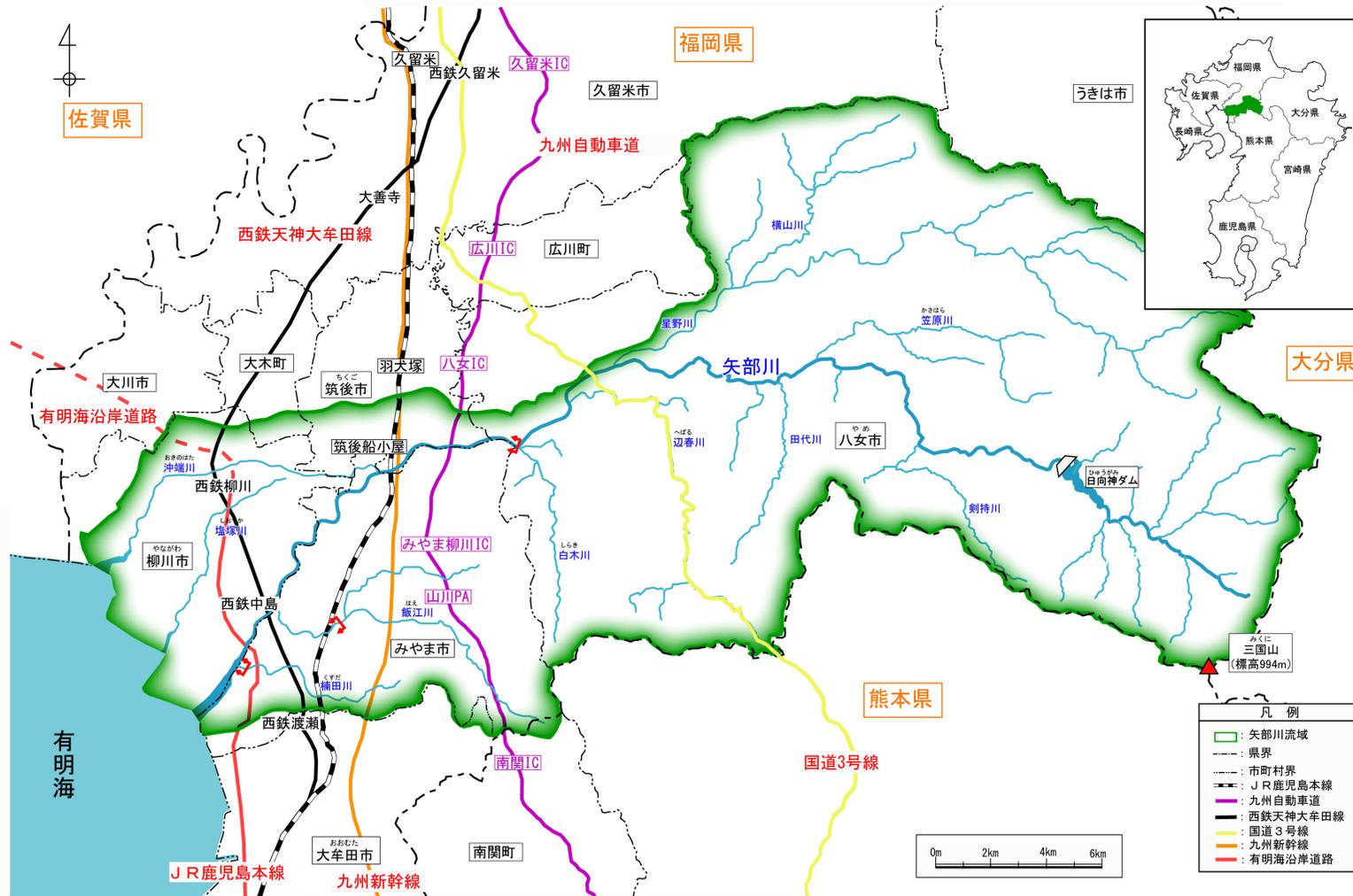


図-3.4 矢部川流域交通体系図